

かば桜学園学校課題研究の構想

1 研究主題

研究主題: 伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫

《副題》

石戸小 国語科を軸としたファシリテーションによる授業改善

西中 互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやりとりできる生徒の育成を目指して

2 目指す児童生徒像

- ・互いの立場や考えを大切にしながら適切にやりとりできる児童(石戸小)
- ・互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやりとりできる生徒(西中)

3 研究主題設定の理由

かば桜学園では、石戸小学校と西中学校による小中一貫教育を行っている。これまで行ってきた様々な交流行事は、いわゆる中1キャップ解消のために、一定の成果を保ってきた。9年間の教育には、カリキュラムマネジメントの一貫した柱が必要である。令和3～5年度の学校課題研究では、「学級づくり」に焦点を置き、「社会性と情動の学習」の研究に取り組み、ASESS を取り入れ SEL-8S プログラムを小・中学校共に特別活動のカリキュラムに組み込んだことは、大きな成果となった。今後の学校課題研究も、かば桜学園カリキュラムのさらなる発展や蓄積を目指していきたい。

現在のかば桜学園の課題として、学力向上や不登校児童生徒の増加等があげられる。これまでの諸調査や学校評価、教職員の振り返りなどから、これらの問題には、本学園の児童生徒の「伝えあう力」が不十分であることと深く関係していると考えられる。また、多様な状況に応じて他者と共同(協働)する学習者主体の学び(ファシリテーション)を構築していくことが、学力向上や豊かな心を育むことにつながることを考える。「伝え合うこと」を通して、基礎的・基本的な知識、技能や自己有用感を高め、一人一人のウェルビーイングの向上も目指していきたい。

中教審は目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と示している。児童生徒一人一人の「伝えあう力」を高め、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すこと、自己理解・他者理解から得られる自己肯定感を高めることで、個別最適な学びと協働的な学びの実現を果たしていきたい。

以上の理由から、本学園の令和6年度以降の研究テーマを「伝えあう力を高めるための指導・支援」とし、各学校において、共通理解を深めながら、研究を進めていく。

4 研究の組織

